

## 練馬区外郭団体中期経営計画の達成状況

団体名	公益財団法人 練馬区文化振興協会	団体所管課	地域文化部文化・生涯学習課
-----	------------------	-------	---------------

経営計画期間	令和 2 年度 ~ 6 年度	※計画期間は基本計画が5年間(令和2~6年度)、年度別計画は3年間(令和2~4年度)
--------	----------------	--

### 団体の目指す将来像

区との密接な連携のもと、文化芸術施策の一翼を担い、公益財団法人ならではの柔軟性・専門性・公共性を生かした事業が展開されている。  
区の外郭団体としての一貫性や継続性の強みを発揮しながら、区に居住する音楽家や芸術家、区民の多彩な文化活動などつながり、連携、協働して魅力的な文化芸術事業が展開されている。

### 取り組みを進めるうえでの「基本的方針」

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、施設の臨時休館や事業を延期・中止するなど大きな影響が生じている。このような状況にあっても、感染拡大防止に配慮し、安全・安心な環境を確保したうえで、区民に文化芸術を継続して提供できるよう、下記の事項を基本的方針として取り組む。

・区政を担うパートナーとして、行政を補完・代替する役割を果たし、区の文化芸術施策と連携・協力し、区政に貢献する。

・収益事業の実施や外部資金の獲得などの自主財源の確保に努め、事業活動に再投資し、活動の幅を広げる。

・各施設が魅力ある事業展開と円滑な施設運営を行い、効果的・効率的に事業を実施できるよう組織・人員体制を再編する。

### 区が外郭団体に求めるもの

区との密接な連携のもと、区の文化芸術施策の一翼を担い、公益財団ならではの柔軟性・専門性・公共性を生かした事業を展開すること。  
区立施設の指定管理者として、施設間の連携を図りながら適切な管理運営を行うこと。

### 達成状況の評価

外郭団体は、経営計画の取組や達成状況を毎年度、評価する。団体が行う達成状況の評価は、つぎの3段階で評価する。

- 「A」 計画以上に進んだもの
- 「B」 概ね計画どおりのもの
- 「C」 計画どおりに進んでいないもの

### 団体所管課の評価

団体所管課は、年度終了後、団体の取組や達成状況などから、年度の評価を行う。

事業1	練馬文化センター/大泉学園ホール			
取組内容	<p>①著名なオーケストラ・演奏家によるクラシックコンサートを練馬文化センターで定期的に実施する。</p> <p>②区内各所に拠点を設け、区民に身近な場所で気軽に音楽に触れられる機会を提供する。ユニバーサルデザインに積極的に取り組み、事業にUDトーク等のICTを活用する。</p> <p>③「能と狂言シリーズ」(新規)、「万作・萬斎狂言の会」、狂言師派遣事業、能楽師派遣事業(新規)を実施する。</p> <p>④区民等に対して、幅広い分野の公演事業の機会を提供するため、施設の稼働率を向上する。</p>			
目標①	質の高いクラシックコンサートの実施 アンケートにおける来場者の満足度95.0%			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	95.0%	95.0%	95.0%
実績	92.6%	92.7%		
団体の達成 状況の評価	—	B		
備考 (※)	—			
目標②	音楽を誰もが身近に楽しめる取組 拠点2カ所			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	0カ所	1カ所	2カ所
実績	0カ所	2カ所で試行		
団体の達成 状況の評価	—	B		
備考 (※)	—			

目標③-1	能・狂言公演の定期的な実施、子どもが能・狂言を体験する機会の提供(万作・萬齋狂言の会の公演)年間2公演			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	1公演	2公演	2公演
実績	1公演	1公演		
団体の達成 状況の評価	—	B		
備考 (※)	—			
目標③-2	能・狂言公演の定期的な実施、子どもが能・狂言を体験する機会の提供(学校への狂言師派遣事業・能楽師派遣事業)年間10校			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	8校	10校	10校
実績	8校	8校		
団体の達成 状況の評価	—	B		
備考 (※)	—			
目標④-1	ホール利用の促進(練馬文化センター大ホール) ホール稼働率78.0%			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	77.0%	78.0%	78.0%
実績	71.0%	28.0%		
団体の達成 状況の評価	—	C		
備考 (※)	—	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、臨時休館、定員や開館時間の制限を設けたこと、および利用者から感染予防によるキャンセルの申し出があったため。		

目標④-2	ホール利用の促進(練馬文化センター小ホール) ホール稼働率84.0%			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	83.0%	84.0%	84.0%
実績	77.0%	40.0%		
団体の達成 状況の評価	—	C		
備考 (※)	—	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、臨時休館、定員や開館時間の制限を設けたこと、および利用者から感染予防によるキャンセルの申し出があったため。		
目標④-3	ホール利用の促進(大泉学園ホール) ホール稼働率93.0%			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	93.0%	93.0%	93.0%
実績	88.0%	49.0%		
団体の達成 状況の評価	—	C		
備考 (※)	—	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、臨時休館、定員や開館時間の制限を設けたこと、および利用者から感染予防によるキャンセルの申し出があったため。		

取組内容の評価(令和2年度)	
団体	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、臨時休館や定員・利用時間の制限を設けたうえでの運営となったため、施設の稼働率は計画達成に至らなかった。練馬文化センターの主催事業は、中止や延期に伴う開催日程の変更等を行った事業もあったが、取組内容としては概ね計画通り達成できた。
事業 所管課	文化センターおよび大泉学園ホールの柱である音楽・伝統文化に関する事業や、拠点化に向けた区内各地でのイベントなど、計画通りに実施したことを評価する。ホール稼働率は目標値に達していないが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、区の指示に基づいた休館や公演の延期、業界ガイドラインに基づいた感染症対策等を徹底し、クラスターを発生させることなく、安全・安心に事業を実施した。サーマルカメラの運用や公演事業における実施場所の変更(小ホール⇒大ホール)等を行い、利用者の安全確保に積極的に取り組んだ。

事業2	美術館			
取組内容	①充実した展覧会と効果的な広報活動を実施することで来館者数の増加につなげる。 ②美術館活動の質を高めるため、収蔵コレクションを整理し、活用する。			
目標①	美術館の認知度の向上および来館者数増に向けた取組 来館者数110,000人			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	115,000人	110,000人	110,000人
実績	104,016人	41,958人		
団体の達成 状況の評価	—	C		
備考 (※)	—	新型コロナウイルス感染症の感染拡大による企画展、学校展(小学校連合同工展、中学校生徒作品展、小中学校連合書きぞめ展)、貸館事業(区民ギャラリー)などの会期短縮や中止のため、来館者が大きく減少し、計画達成に至らなかった。		
目標②-1	収蔵コレクションの整理・活用(収蔵コレクションの整理)			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	調査	検討	検討
実績	—	調査		
団体の達成 状況の評価	—	B		
備考 (※)	—			

目標②-2	収蔵コレクションの整理・活用(収蔵コレクションを活用した展覧会の開催) 展覧会の開催2回			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	2回	2回	2回
実績	2回	2回		
団体の達成 状況の評価	—	B		
備考 (※)	—			

#### 取組内容の評価(令和2年度)

団体	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による企画展、学校展(小学校 連合図工展、中学校生徒作品展、小中学校連合書きぞめ展)、貸館事業(区民ギャラ リー)などの会期短縮や中止のため、来館者数は計画達成に至らなかった。収蔵コレ クションの整理・活用については予定通り達成することができた。
事業 所管課	来館者数は目標値に達していないが、企画展の混雑状況等のSNS発信、工作等の動 画配信の実施など、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮しながら事業 を進めたことを評価する。 収蔵品の整理を進め、収蔵品を中心とした意欲的な企画展を開催するなど、美術館 再整備を視野に入れた収蔵品活用の取組を評価する。 美術館連絡協議会における令和2年度奨励賞の受賞(「背く画家 津田青楓とあゆむ 明治・大正・昭和」および「式場隆三郎 脳室反射鏡」)など、良好な実績、成果が認 められる。

事業3	石神井公園ふるさと文化館			
取組内容	<p>① 展覧会、各種事業の内容を充実し、魅力をアップし、満足度を高める。広報を拡大し、館の周知度を高め、来館者数の増につなげる。</p> <p>② 常設展示を更に魅力のあるものにするため、機器、設備の老朽化や研究結果の進展などに対応して内容や手法を改善する。</p>			
目標①-1	来館者数増に向けた取組(来館者数) 来館者数206,000人			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	206,000人	206,000人	206,000人
実績	201,137人	145,333人		
団体の達成 状況の評価	—	C		
備考 (※)	—	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、特別展・企画展や関連事業が一部中止となり、来館者数の計画達成には至らなかった。		
目標①-2	来館者数増に向けた取組(来館者満足度) 来館者の満足度95.0%			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	95.0%	95.0%	95.0%
実績	92.4%	93.0%		
団体の達成 状況の評価	—	B		
備考 (※)	—			

目標②	常設展示室のリニューアル			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	リニューアル 計画作成	リニューアル 基本設計作成	リニューアル 詳細設計作成
実績	現行展示 検証	リニューアルに向け た調査・研究		
団体の達成 状況の評価	—	C		
備考 (※)	—	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う状況の変化により、区と協議を行い、リニューアルの手法を全面的に見直すこととした。		

取組内容の評価(令和2年度)

団体	<p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大による臨時休館等があったため、特別展・企画展や関連事業が一部中止となり、来館者数は計画達成に至らなかったが、感染症対策を実施しながら、展覧会や各種事業の内容の充実を図り、新たに動画配信を行う等満足度を高める取り組みを行った。</p> <p>常設展示室のリニューアルについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う状況の変化により、区と協議を行い、リニューアルの手法を全面的に見直すこととした。</p>
事業 所管課	<p>来館者数は目標値に達していないが、展覧会の混雑状況等のSNS発信、常設展示案内や講演会等の動画配信を1年間を通じて実施するなど、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮しながら事業を進めたことを評価する。</p> <p>特別展(「昭和のこどもたち」および「こわい?こわくない?わにわにの絵本展」)では目標を超える観覧者を得た。利用者アンケートの満足度は93%であり、良好な実績、成果が認められる。</p> <p>常設展示室リニューアルの方向性については、今後の区財政等の状況を見ながら、文化振興協会と協議を進めることとする。</p>



財務・組織	事務局(協会本部)
取組内容	<p>①自主財源で行う事業に投資するための財源を確保するため、自動販売機の設置許可による使用料や物販の収益などの外部資金を獲得する。</p> <p>②各施設間の調整、支援機能、広報機能の強化および(仮称)「映像∞文化のまち構想」などの新規事業に対応できるよう事務局体制を見直す。</p> <p>③区の人事給与制度に倣い、頑張った人が報われるメリハリのある人事・給与制度(業績評価制度)を構築していく。</p> <p>④職員個人の能力の向上を目的に、人材育成方針・計画を策定し職員の自覚を促す。係長職など管理監督者職に固有職員を配置する。</p> <p>⑤各施設における事業において、専門家等の意見を踏まえつつ、ユニバーサルデザインに積極的に取り組んでいく。</p> <p>⑥(仮称)「総合企画戦略チーム」を設置し、その戦略のもとで職員の企画力の強化および専門性の向上を図る。</p>

目標①	収益事業等会計の導入			
	元年度	2年度	3年度	4年度
年度別取組計画	—	検討	検討	導入
実績	—	検討		
団体の達成状況の評価	—	B		
備考	—			

目標②	事務局体制の見直し			
	元年度	2年度	3年度	4年度
年度別取組計画	—	組織再編(一部)専門人材の活用	組織再編専門人材の活用	専門人材の活用
実績	—	組織再編(一部)専門人材の活用		
団体の達成状況の評価	—	B		
備考	—			

目標③	人事・給与制度の見直し			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	検証	制度見直し・業績 評価制度の構築	運用
実績	—	給与・手当関係の 見直しの実施		
団体の達成 状況の評価	—	<b>B</b>		
備考	—			

目標④	人材育成方針・計画の策定			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	検証	人材育成方針 ・計画の策定	運用
実績	—	検証		
団体の達成 状況の評価	—	<b>B</b>		
備考	—			

目標⑤	ユニバーサルデザインの展開			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	事業内容の 検証	事業への反映	事業への反映
実績	—	広報物への音声コー ド導入とホームペー ジの英語対応		
団体の達成 状況の評価	—	<b>B</b>		
備考	—			

目標⑥	(仮称)「総合企画戦略チーム」の設置、専門知識を有する外部人材の配置または活用、相談体制の構築			
年度別 取組計画	元年度	2年度	3年度	4年度
	—	(仮称)総合企画戦略チームの設置	相談体制の構築	運用
実績	—	(仮称)企画戦略会議の試行として、外部有識者との意見交換会を開催		
団体の達成状況の評価	—	B		
備考	—			

取組内容の評価(令和2年度)	
団体	協会の運営および体制の強化に係る各取組について概ね計画通りに達成できた。今後、各施設との連絡会議や事務局内会議、外部の専門家を含む協会企画戦略会議を通じて、経営計画に基づいた協会の将来像などを具体的に描きながらあるべき姿を確立していく。
団体 所管課	収益事業等会計導入を検討し、文化庁や民間団体の助成金獲得など自主財源確保に努めたことを評価する。 招聘した外部人材の意見を取り入れる仕組みや組織体制を適宜見直しており、文化芸術をはじめ、労務管理や人材育成など、今後の法人運営の強化に期待できる。 広報物への音声コード貼付やHPの英語表記など、新たなユニバーサルデザイン対応を導入したことを評価する。